2010年（平成22年） 5月27日（木曜日）
（NO，10529） 大安（旧 4月14日）

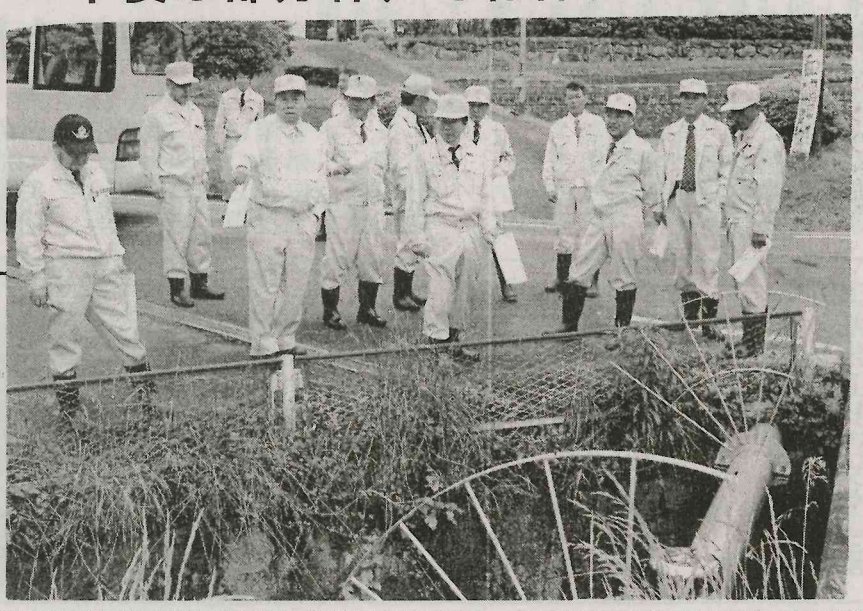
夕刊 矢祭

東館字桃木町42 夕刊矢祭新聞社 昭和57年12月6日第３種郵便物認可
発行人 菊池正典 ☎46-3508 日刊（日曜、祭日、第二・四土曜休刊） 月額 1,000円

十三事業の工事現場巡る

きょう午前中 町議会議員町内視察研修

午後は部分林、町有林現地調査



矢祭町議会（富永盛彦議長）は、全議員が参加してきょう午前中、町内の現地調査をした。

実施した。

町有林等の研修は二年越しの事業で、一昨年度に現地調査をし、十二年度に巡視と研修を兼ねた。

町内の工事現場では、業者に説明を請い、概要と工期を確認すると共に、施工状況をつぶさに視察した。

半日にわたる研修は、東館にマイクロバスを用意して行われた。

管内の農業用水替工事、関岡地区農免農道工事、天神石井戸配水管布設工事、神沢支線Ⅱ期工事、赤坂貞雄氏ほか一名の林道事業、鈴木徳一氏ほか一名の林道整備事業、金沢誠治氏ほか一名の林道開設事業、藤野静夫氏ほか一名の林道改良事業、藤井育太郎氏ほか一名の林道小田川内地区配水管布設工事、藤田良雄氏ほか一名の林道白川手元線Ⅱ期工事、藤原重光氏ほか一名の林道宝石線改良事業、藤井武俊氏ほか一名の林道東館白川線舗装工事、藤原正斎氏ほか一名の林道整備事業、竹内敏夫氏ほか一名の林道小田倉線改良事業、矢祭町農業振興公社の農業用水替工事、矢祭町の農業振興公社の農業用水替工事、矢祭町の農業振興公社の農業用水替工事、矢祭町の

家電・住宅エコポイント
福島県内唯一の
環境寄附対象団体に決定

矢祭町商工会青年部（宗田浩一部長）は「矢祭型フードマイレージ環境型社会循環形成事業」と題し、「矢祭山につつじを植えようプロジェクト」として活用することにしている。

寄附を受けた青年部では「矢祭山につつじを植えようプロジェクト」として活用することにしている。

町商工会青年部のフードマイレージ循環型社会形成事業が採択を受ける

同青年部ではこの度、家電・住宅エコポイント事業における環境寄附対象団体の募集に応じたところ、環境省・総務省・経済産業省・エコポイングリーン家電エコポイント事務局より環境寄附対象団体（地球温暖化防止）として福島県内で唯一の採択を受けることができた。

環境寄附団体の登録により、家電ポイントを保有する一般消費者が同青年部に寄附ができることになる。

二十二年度の事業として、矢祭山に「つつじを植樹する計画をたてている。

矢祭山の事業を展開し、この事業を通して、矢祭山につつじを植樹する計画をたてている。

矢祭型フードマイレージイメージ

矢祭型フードマイレージを切り口とした、地産地消・地球温暖化防止の活動を行っている。

「エコポイント：ポイント」を「CO2：削減量を表す単位」

石井小樹木の枝打ち
森林組合が奉仕作業

東白川郡森林組合のボランティア活動として石井小学校敷地の松、桜樹木整備奉仕作業が行われた。

運動会前に行われた。

歴史ある松や桜の老木化した枝が落下し、危険があるため、二十一森林組合に依頼し、二人が作業にあたり、危険ケ所の枝打ちや桜の切り口には薬を塗るなど専門的な処置までしてくれた。

朽ちて危険な枝、下すの老木、

JA東西しらかわが夏秋野菜販売対策会議

JA東西しらかわ（鈴木昭雄代表理事組合長）と同組合園芸生産部会連絡協議会（佐藤広実会長）の「夏秋野菜販売対策会議」は二十四日、ルネサンスで開かれ、夏秋各市場及び各社の昨年度の販売取り組みについて協議した。

棚倉パルテノンで開かれ、夏秋各市場及び各社の昨年度の販売取り組みについて協議した。

関係者約六十人が出席した。

総会には、鈴木組合長と江田和行県南農林事務所農業振興普及部長、福島農林事務所農業振興普及部長、JA全農福島営農事業所郡山園芸センター猪俣孝一所長があいさつし、協議に入った。

佐藤会長が紹介のあと協議に入った。

二十二年度は、流通情勢の変化や消費地ニーズに的確に対応できる体制づくりと販売戦略を構築し、販売確保と販売強化に向け積極的に取り組むことを導入し、農薬適正使用の徹底や適正農業規範の実践をはじめ、生産者の拡大に得意先の開拓